

ISSN 0288-139X

水草研究会会報

61号(1997年6月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 61 (June, 1997)

水草研究会

目 次

國井秀伸・井上功一：バイカモの成長と光合成	1
下田路子：オーストラリア南西部で訪ねた2種類の湿地： 人工の湿地と自然の湿地	12
上赤博文：佐賀平野の水辺環境「クリーク」を 佐賀の高校生はどのように認識しているか	19
下田路子：「池の生物プロジェクト (The Pond Life Project)」の紹介	23

文献リスト，書評

〔表紙写真〕バイカモ群落 兵庫県美方郡浜坂町 1995年8月

日本の河川は急流で、水草の生育環境としては適さない場所が多い。オオカナダモやコカナダモなどの帰化植物が各地の河川に侵入して定着したため、河川における水草の生育範囲は拡大したが、在来種が何種類も群生するような場所は河川のごく一部であろう。しかし、少し趣が変わるのが湧水河川である。バイカモやミクリ類が一面に群生し、陸上植物の沈水形も加わってたいへんにぎやかになる。水も冷たく澄んでいるので気持ちが良い。しかし、そのような河川的环境もさまざまな変化を余儀なくされている。以前調査してすばらしかったと記憶に残る場所を再訪すると、改修工事によってコンクリート護岸になっていたり水が汚れてかつての面影をなくしていたりで、がっかりすることが多い。

西日本ではバイカモ群落の衰退を各地で見ると、清流域の環境悪化は確実に進行している。写真は兵庫県但馬地方の小河川のバイカモ群落のひとつだが、地元の保護活動で今もこのような姿を見ることができる。しかし、湧水の減少やツルヨシの繁茂など保全の課題は多い。

(角 野 康 郎)